

# 生活リハビリテーションセンターだより

## 令和5年度 第1回学習懇談会

6月4日（日）第1回学習懇談会を開催しました。当センターでは利用中の方と利用を終了された方の交流の機会を目的として年4回開催しています。当日は11名の当事者様と5名のご家族の総勢16名の方々が参加されました。

参加者は4チームに分かれて、モルック※や脳トレゲームを楽しみました。モルックはここ数年流行しているフィンランド発祥のスポーツですが、今回は全員が初めての体験で、狙いを定めて投げたのに当たらなかった時のため息や、得点が50点ちょうどになった時の歓声など、大変盛り上がりました。ミラクルショットを決めた当事者様がヒーローインタビューで語った

「成功の秘訣は落ち着いて狙いを定めたこと」という言葉に皆さん納得してうなずいていました。脳トレゲームでは、50音が書かれた文字カードを組み合わせて、できるだけたくさんの単語を作る“言葉づくりゲーム”を行い、初めて会う参加者同士でも「この文字とこの文字を動かしたらもう一つ単語ができる！」とアイデアを出しあいながら盛り上がりしていました。

後半はお茶会を皆で楽しみました。最近の悩み、楽しみにしていること、失敗したこと、取り組んでいることなどの近況を話し合い、交流を深めることができました。

次回も皆様のご参加をお待ちしております。



モルック



脳トレゲーム

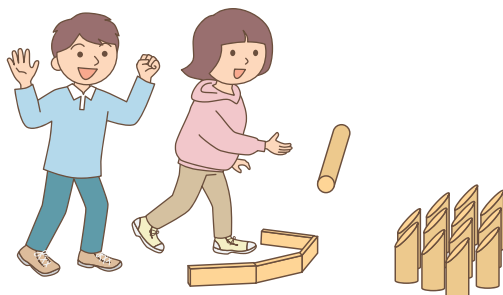


お茶会

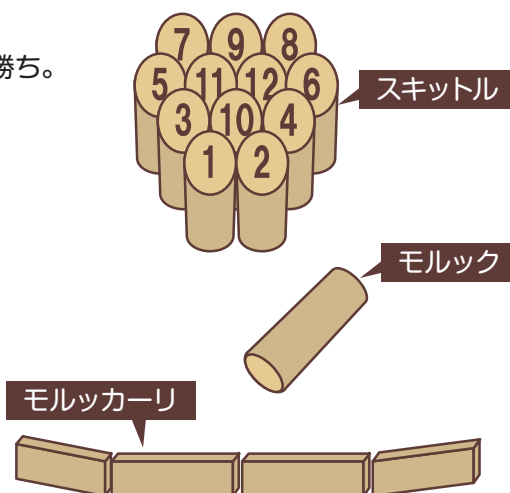
※『モルック』は、フィンランドの伝統的なゲームを元に開発された大人も子どもも楽しめるアウトドアスポーツです

### モルックのルール

- ・チームに分かれ交互にモルックを投げる。
- ・スキttlを倒し、先に得点が50点ピッタリになったチームが勝ち。
- ・得点が50点を超えると25点に戻る。
- ・モルックは、水平に持ち下から投げる。
- ・モルッカーリを蹴って倒さないように気を付けて。



### モルックの道具



## 研修会報告

令和5年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

### 第1回研修会 「脳損傷による後遺症のある方の就労

#### ～雇用企業の立場から～

6月14日(水)に第1回研修会を開催しました。高次脳機能障害や身体障害のある方が就労をするにあたり、企業が求めている就労準備性や支援機関に求める支援、企業の受け入れ体制などについて、シャープ特選工業株式会社顧問の持永(もちなが)恒弘様と、株式会社近鉄トレーディングサービス人事総務グループマネージャーの八幡(はば)尚子様にご講義いただきました。



シャープ特選工業株式会社  
顧問  
持永 恒弘 様



株式会社近鉄トレーディングサービス  
人事総務グループマネージャー  
八幡 尚子 様

前半は持永様より「新規就労にむけて準備しておいてほしいこと」について、企業において障害者雇用はどのような目的があるのか、どのような人材を求めているのか、どのような課題があるのか、を説明していただいたのち、支援者に期待することについて詳しくお話しいただきました。

後半は八幡様より「復職を受け入れるために準備したこと」として、実際に当センターでのリハビリを経て復職された事例について、復職前から現在に至るまでの経過の中で配慮した事項や課題などについてご紹介いただきました。

参加申し込みは定員を大幅に上回り120名を超え、皆様の関心の高さがうかがえました。アンケートでは「企業が受け入れる側としてどのように考えているか、だけでなく、受け入れられる側に求めていることなどを知ることができ非常に勉強になった。」「復職がリハビリではない、ということに気づかされた。」「過去の自分をリセットする勇気、自己理解をすることが第1歩目だと感じた。」「企業の話を直接聞くことができ、今後の支援の参考になった。」といった感想が多く寄せられました。実際に障害のある方を雇用している企業のお話を聞くことができる貴重な機会となりました。

今後もより良い支援につながるような研修会を開催していきたいと思っております。



### 第2回研修会 「神経心理学的検査からみる高次脳機能障害の支援

#### ～認知リハビリテーションをどう組み立てるか～

8月27日(日)に第2回研修会を開催しました。神経心理学的検査をもとに気づきや代償手段の獲得に向けたリハビリテーションの組み立ての仕方や実際に取り組まれているプログラム内容について、なやクリニック高次脳機能外来 作業療法士の俵 あゆみ様にご講義いただきました。



なやクリニック 高次脳機能外来  
作業療法士  
俵 あゆみ 様

前半は、当事者のリハビリテーションを始めるにあたり、検査にもとづいた評価が大事であること、リハビリテーションの環境は当事者にとって安心・安全な場であること、自身の障害の理解と代償手段を獲得していけるような関わり方が大切であることなどを、お話しくださいました。後半は、リハビリテーション

を通して代償手段を獲得し、上手く活用しながら社会参加をされている事例をご紹介いただきました。

アンケートでは「訓練内容や当事者の方の気づきについてどのように訓練や支援をしたら良いか悩んでいたため、非常に参考になった。」「安心安全の場を選択するために自分の状態を知る事が大切であるということが理解できました。」などといった感想が寄せられました。医療機関で従事するセラピストの方や相談員の方、福祉機関で従事されている方など、多職種の方にご参加いただき、今後、医療機関・福祉機関の支援者として取り組めることを学べた研修会になりました。



## 月替わりプログラムのご紹介

### ～モルック～

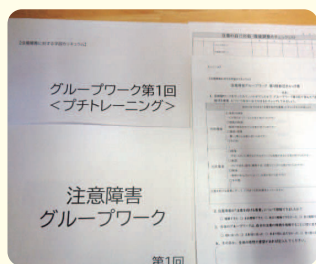
5月はモルック（モルックについては1ページをご参照ください）を実施しました。このプログラムでは、片麻痺の方のバランスを向上することや、スポーツを通じて利用者様同士のコミュニケーションを促進することを目的として行いました。片麻痺の方にとっては芝生という不安定な場所でモルックを遠くに投げる動作にはバランスが求められます。また、ゲーム終盤にはどのスキttlを狙うかが重要となり、チーム内での戦略が

勝敗を分けるカギとなります。初めてのモルックで戸惑う様子もみられましたが、回数を重ねるごとにチーム内で積極的に相談をしたり、狙ったスキttlが倒れると「ナイスショット!!」と声をかけ合ったりと盛り上がっていました。

青空のもと、参加された利用者様からは「またやりたい。」「楽しかった。」との感想をいただき、気持ちも晴れやかになるひとときとなりました。



### ～注意障害プログラム～



6月・7月は高次脳機能障害の主な症状の1つである「注意障害」に焦点をあてた集団プログラムを行いました。

プログラム内容は、「障害者職業総合センター」※

が開発した「注意障害に対する学習カリキュラム」を使用し、「講義やグループワークを通して自らの注意障害の特徴を知ること」「代償手段を使い、他者に障害を説明できること」また、「注意障害以外の障害特性などについても整理し、理解を深めていくこと」をめざして計7回にわたって実施しました。

具体的な内容としては、注意障害の特徴やその対処方法などを伝えました。ワークの中では、「スタッフが会話をしている最中に課題を行う」「パーティーションやルーペなど様々な代償手段を用いて課題を行い、それ

ぞれの代償手段の有効性を自己評価する」などを実施しました。

プログラムに参加された利用者様からは「自分の苦手なことへの理解が深まった。」「訓練で代償手段を使っていきたいです。」などの声をいただきました。

今後も、利用者様に障害特性などの気づきを増やせるようなプログラムを提供させていただきたいと思えます。



※障害者職業総合センターとは、広域・地域障害者職業センターの運営、職業リハビリテーションに関する研究、技法の開発及びその成果の普及等を行っている公的機関です。

## 今年もイチゴがたくさんできました

当センターでは、健康福祉プラザの屋上ふれあいガーデンにて、利用者様と季節ごとの草花や野菜を育てる園芸活動を行っています。毎年春にはレイズドベッド（高さのある花壇）で育てたイチゴの収穫をしゃがみ込み動作が難しい方や車いす利用者の方にも楽しんでいただいています。

今年もたくさんのイチゴが実り、5月10日に重症心身障害者（児）支援センター「ベルデさかい」の利用者様にもイチゴの収穫をしていただきました。ご自身でイチゴを見つけて楽しそうに摘み取られたり、スタッフが収穫したイチゴを手渡されたりして、皆さん笑顔になっていました。収穫したイチ



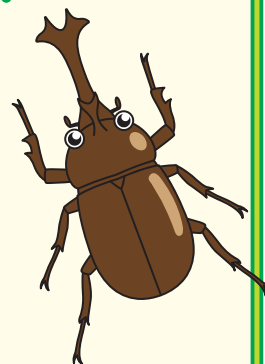
ゴはベルデさかいの管理栄養士さんの管理の下で安全に美味しく食べられたそうです。イチゴの収穫という活動を通して、両センターの繋がりをもつ良い機会となりました。



## ～カブトムシプロジェクト～

当センターでは、6年前からカブトムシを飼育しています。集団活動の一環として、エサやりや土替えなどの飼育作業を行っています。例年では、育ったカブトムシは堺市内の児童発達支援センターへお届けしていました。

今年は新たな試みとして、堺市立健康福祉プラザのLINEから市民の皆様に向けて、カブトムシ配布のご案内を配信しました。配布当日の6月21日、近隣の小学生たちがプラザにやって来ました。飼育ケースから自分の好きなカブトムシを選んで嬉しそうにしている小学生の姿を見て、また、プラザのLINEを見て足を運んでくれたことに、こちらまで嬉しくなりました。8月末、飼育ケースの土の中には、今年産まれた卵からたくさんの幼虫がかえっています。来年の夏もまた、市民の皆様にも喜んでもらえるよう、利用者様と一緒に大切に育てていきたいと思ひます。



## 堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00～17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>

バックナンバーはこちらから⇒

